

山道の名残いとさむきにとて、北野の森にまばしやすらひて、いぬの時ばかりにやどりにかへりぬ、

這一帖漫書連愚毫述幽情誠供一祭而已

藤重季

〔武江產物志 遊觀〕紅葉 海安寺 品川 東海寺 品川 正灯寺 淺草 日暮里青雲寺 上野山中

根津權現山 瀧の川辨天 夕日山紅葉 目黒明王院 眞間の紅葉 眞間弘法寺 高尾の紅葉 山谷

土手の 高田穴八幡 隅田川 秋葉 西方寺

〔江戸名所圖會 十四〕補陀山海晏寺、○中略

楓樹江戸丹楓の名勝にして、一奇觀たり、晚秋の頃は、滿庭錦繡を晒すが如く、海越の山々は、紅の葉分に見えはたり、蒼海夕日に映じては、又紅を濯が如く、書院僧房も其色にか、やき、此地遊賞の人酔色ならざるはなし、江戸砂子に蛇腹紅葉、千貫紅葉、花紅葉、淺黄紅葉、非梅紅葉、猩々紅葉など云ありと云々、

〔重修本草綱目啓蒙 二十三〕楓香脂 楓樹ノヤニ 一名楓乳藥性要略 楓脂 雲香 共同上 芸香

本草 楓香 附方 樹一名紅樹名花譜 色木訓蒙字會 茶條樹同上 部落山東通志

唐楓

楓樹和産ナシ、和名抄ニヲガツラト訓ジ、又ムマカイデト訓ズ、皆非ナリ、享保年中ニ漢種渡リ、東都及日光山ニアリ、樹直上シテ大木トナル、葉大ナル者ハ四五寸、三尖ニシテ鋸齒アリテ、地錦葉ノ如シ、秋ニ至レバ黄色ニシテ落ツ、唐山ニハ紅葉ノ者アリテ、丹楓ヲ詠ズル詩多シ、本邦ノカイデノ如ク、品類多シト見ユ、コノ木ヨリ出ル脂ヲ楓香脂ト云、形松脂ノ如ニシテ、色白ク光澤アリ、故ニ松脂ノ色白キ者ヲ以テ爲ルト、本草彙言ニ云リ、舶來ナシ、一名白膠香ト云、唯白膠トノミ云時ハ鹿角膠ナリ、夏小花ヲ開キ後實ヲ結ブ、楓楮ト云、又針線包大倉州志ト云、大サ龍眼ノ如ク、圓ニシテ軟刺アリ、蓖麻毬トウゴロカニ似タリ、食用ニ堪ヘズ、帷焚作香ト秘傳花鏡ニ云リ、痘瘡ノ時焚テ外ノ惡臭ヲ避クルコト、侏赤全書ニ出ヅ、本邦ノモミヂハ、本名カイデ、或ハカヘデ共云、葉形蛙手ニ似タル